

Anxiety

Disorders

DSM-5

分離不安障害 Separation Anxiety Disorder

以下の項目のうち3つ以上が証拠として存在する、その人が愛着を持っている重要人物からの分離に対する、発達的に不適切で過剰な恐怖または不安。

| 1

- A. 家庭または愛着をもっている重要人物からの分離が起きるか予測される際の反復的で過剰な苦痛
1. 病気や外傷や災害や死といったことで、愛着をもっている重要人物が失われるか、またはその人に危害が及ぶかもしれないという持続的で過剰な心配
 2. 厄介な出来事(例、迷子、誘拐、事故、病気)によって、愛着をもっている重要人物から引き離されるのではないかという持続的で過剰な心配
 3. 分離に対する恐怖のために、家を離れて学校や仕事、その他の場所へと外出することに対する持続的な抵抗または拒否
 4. 1人で、または愛着をもっている重要人物がいないで家や他の状況にいることに対する持続的な恐怖または抵抗
 5. 愛着をもっている重要人物が側にいない状況で寝たり、家を離れて寝たりすることに対する持続的な抵抗または拒否
 6. 分離を主題とした悪夢の繰り返し
 7. 愛着をもっている重要な人物からの分離が起こる、または予測される際の、反復する身体症状の訴え(例:頭痛、腹痛、嘔気、または嘔吐)
- B. この恐怖、不安や回避が持続的であり、小児や青年であれば少なくとも4週間、成人であれば典型的には6ヶ月以上続いている。

- C. この障害は臨床上著しい苦痛、または社会的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている
- D. この障害が、自閉症スペクトラム障害で変化に対する過剰な抵抗により家を離れることへの拒否、精神病性障害における分離に関する妄想や幻覚、広場恐怖における信頼する同伴者なしに外出することへの拒否、全般性不安障害により重要な他者に病気や危害がふりかかるのではないかという心配、または疾病不安障害における病気になるのではないかという懸念といった他の精神障害でよりよく説明できない。

- E. この障害はコミュニケーション障害(例、childhood-onset fluency disorder)ではうまく説明されず、自閉症スペクトラム障害、統合失調症、または他の精神病性障害の経過中にのみ起こるものではない。

選択的緘黙 Selective Mutism

- A. 他の状況では話すことができるにもかかわらず、特定の話すことが期待される社会的状況(例、学校)では、一貫して話すことができない。
- B. この障害が、学業上、職業上の成績または対人的コミュニケーションを妨害している。
- C. この障害の持続期間は少なくとも1カ月(学校での最初の1カ月に限定されない)。
- D. 話すことができないことは、その社会状況で要求される話し言葉の楽しさや知識がないことによるものではない。

特定の恐怖症 Specific Phobia

- A. ある特定の対象または状況(例、飛行、高所、動物、注射を受けること、血を見ること)に対する著明な恐怖や不安。
注釈: 子供の場合は恐怖や不安が、泣く、かんしゃくを起こす、立ちすくむ、またはしがみつ়くことで表現されることがある。
- B. 恐れている物や状況は、ほぼ毎回ただちに恐怖か不安を誘発する。
- C. 恐れている物や状況は、強い恐怖や不安を伴い耐え忍ばれている、または回避されている。
- D. その恐怖や不安は、その物や状況によって置かれた実際の脅威、社会文化的な文脈につり合わない。
- E. その恐怖や不安や回避は、典型的には6ヶ月以上続くような持続的なものである。
- F. その恐怖や不安や回避は、臨床上著しい苦痛、または社会的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている
- G. この障害が、(広場恐怖で生じるような)パニック様の症状や無力にする症状による他の恐怖、不安または状況の回避;(強迫性障害で生じるような)強迫に関する物や状況;(心的外傷後ストレス障害で生じるような)外傷的体験の想起;(分離不

不安障害で生じるような愛着の対象や家からの分離、または(社会不安障害で生じるような)社会的状況などといったといった他の精神障害でよりよく説明できない。

該当すれば特定せよ:

動物型

自然環境型 (例、高所、嵐、水)

血液・注射・外傷型 (例、針、侵襲的医学処置)

状況型 (例、飛行機、エレベーター、閉ざされた場所)

その他の型 (例、窒息感や嘔吐を起こしうる状況。子どもであれば大きな音やキャラクターのコスチューム)

社交不安障害 (社交恐怖)

Social Anxiety Disorder (Social Phobia)

- A. 他人の注視を浴びうる社会的状況の1つ以上に対する顕著で恐怖や恐怖。例えば、社会的交流(例、会話をする、よく知らない人たちと会う)、人に見られる(例、食べることや飲むこと)、そして他者の前で何かをする(例、スピーチをする)が含まれる。
注釈: 子供の場合は、その不安が、大人との交流だけでなく、同年代の子供との間でも起こるものでなければならない。
- B. その人が、否定的な評価を受けるような行動をとってしまうこと、

あるいは不安症状を呈してしまうこと(すなわち、恥をかかされたり恥づかしい思いをしたりするようなこと; 他者を拒絶したことになってしまったり怒らせたりすることになるようなこと)を恐れる。

- C. その社会的状況は、ほぼ毎回、恐怖や不安を引き起こす。
注釈: 子供の場合は、恐怖や不安は、泣く、かんしゃくを起こす、立ちすくむ、しがみつ、縮こまる、または社会的状況で話せなくなることで示されることがある。
- D. その社会的状況を回避している、または強い恐怖や不安を感じながら耐え忍んでいる。
- E. その恐怖や不安は、その社会的状況によって置かれた実際の脅威、社会文化的な文脈につり合わない。
- F. その恐怖や不安や回避は、典型的には6ヶ月以上続くような持続的なものである。
- G. その恐怖や不安や回避は、臨床上著しい苦痛、または社会的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている
- H. その恐怖や不安や回避は、物質(例、乱用薬物、投薬、あるいは他の治療)の生理的作用によるものではない。
- A. その恐怖や不安や回避は、パニック障害や身体醜形障害や自閉スペクトラム障害といった他の精神障害の症状でよりよく説明できない。
- I. 他の医学的状況(例、パーキンソン病、肥満、火傷や外傷による損傷)が存在するのであっても、その恐怖や不安や回避は明らかに無関係か過剰である。

該当すれば特定せよ:

行為のみのもの Performance only: 公的な場で行為や話をするに恐

怖が限られているもの。

パニック障害 Panic Disorder

- A. 予期しないパニック発作が繰り返し起こる。パニック発作は強い恐怖または不快の突然の高まりで、数分以内にその頂点に達し、そのときには以下の症状の4つ以上が生じる。

注釈：その突然の高まりは平静な状態でも不安な状態でも起こりうる

- 1 動悸、心悸亢進、または心拍数の増加
- 2 発汗
- 3 身震いまたは震え
- 4 息切れ感または息苦しさ
- 5 窒息感
- 6 胸痛または胸部不快感
- 7 嘔気または腹部不快感
- 8 めまい感、ふらつく感じ、頭が軽くなる感じ、または気が遠くなる感じ
- 9 冷感または熱感
- 10 異常感覚（感覚麻痺またはうずき感）
- 11 現実感消失（現実でない感じ）または離人症状（自分自身から離れている）
- 12 コントロールを失うことに対する、または気が狂うことに対する恐怖

13 死ぬことに対する恐怖

注釈：文化特有の症状（例、耳鳴り、首の痛み、頭痛、制御不能の喚叫・号泣）がみられうる。これらは診断に必要な症状の4つのうちの1つとして算定すべきではない。

- B. 少なくとも1回の発作の後1か月以上の間、以下のうち1つまたは両方が続く。
- 1 もっと発作が起こるのではないかという心配、または発作の結果（例、コントロールを失う、心臓発作を起こす、“気が狂う”）への心配の継続
 - 2 発作と関連した、行動の不適應的な明らかな変化（例、運動の回避や慣れない状況の回避のようなパニック発作を避けるための行動、）
- C. その障害は、物質（例：乱用薬物、投薬）の生理学的影響や他の医学的状态（例、甲状腺機能亢進症、心・肺疾患）によるものではない。
- D. その障害は他の精神疾患ではうまく説明されない（例えばパニック発作は、社交不安障害における社会的状況への恐怖に対する反応、特定の恐怖症における特定の対象または状況への恐怖に対する反応、強迫性障害における強迫行為に対する反応、心的外傷後ストレス障害における外傷体験想起に対する反応、または分離不安障害における愛着対象からの分離に対する反応だけでは起こらない）
- ◇ DSM-5 では、広場恐怖がパニック発作と切り離され、別に診断するようになった。

翻訳協力：松田悠

パニック発作の特定用語 Panic Attack Specifier

パニック発作を示すための症状を示した。しかし、パニック発作は精神障害ではなく、コードできない。どの不安障害の文脈でも起こることがあるのと同じように、他の精神障害（例、抑うつ障害、心的外傷が語ストレス障害、物質使用障害）でも起こることがあり、いくつかの医学的状況（例、循環器的、呼吸器的、前庭のもの、胃腸関係）でも起こることがある。パニック発作の存在が認められた際には、それは特定用語として記載される（例、「心的外傷後ストレス障害、パニック発作を伴うもの」。パニック障害においては、パニック発作の存在ははその基準の中に含まれておりパニック発作の特定用語は用いない。

強い恐怖または不快の突然の高まりで、数分以内にその頂点に達し、そのときには以下の症状の4つ以上が生じる。

注釈：その突然の高まりは平静な状態でも不安な状態でも起こりうる

- 1 動悸、心悸亢進、または心拍数の増加
- 2 発汗
- 3 身震いまたは震え
- 4 息切れ感または息苦しさ
- 5 窒息感
- 6 胸痛または胸部不快感
- 7 嘔気または腹部不快感
- 8 めまい感、ふらつく感じ、頭が軽くなる感じ、または気が遠くなる感じ
- 9 冷感または熱感

- 10 異常感覚（感覚麻痺またはうずき感）
- 11 現実感消失（現実でない感じ）または離人症状（自分自身から離れている）
- 12 コントロールを失うことに対する、または気が狂うことに対する恐怖
- 13 死ぬことに対する恐怖

注釈：文化特有の症状（例、耳鳴り、首の痛み、頭痛、制御不能の喚叫・号泣）がみられうる。これらは診断に必要な症状の4つのうちの1つとして算定すべきではない。

広場恐怖 Agoraphobia

- A. 以下の5つの状況のうち2つ以上に対する強い恐怖や不安。
 1. 公共交通機関を使う（例、自動車、バス、電車、船、飛行機）
 2. 広い場所にいる（例、駐車場、市場、橋）
 3. 閉ざされた場所にいる（例、店、劇場、映画館）
 4. 列に並ぶ、または混雑の中にいる
 5. 家の外にひとりである
- B. パニックのような症状が出てきたときに、または何もできなくなったときに、または困った状況になったときに、逃げ出すことの困難である、または助けが得られないという理由から、その人がそれらの状況を恐れる、または避ける。
- C. 広場恐怖の対象の状況は、ほぼ毎回、恐怖が不安を誘発する。
- D. 広場恐怖の対象の状況を積極的に回避している、または同伴者を必

- 要としている、または強い恐怖や不安を感じながら耐え忍んでいる。
- E. その恐怖や不安は、その広場恐怖の対象となる状況によって置かれる実際の脅威、社会文化的な文脈につり合わない。
 - F. その恐怖や不安や回避は、典型的には6ヶ月以上続くような持続的なものである。
 - G. その恐怖や不安や回避は、臨床上著しい苦痛、または社会的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている
 - H. 他の医学的疾患（例、炎症性腸疾患、パーキンソン病）が存在していたとしても、その恐怖や不安や回避は明らかに過剰である。
 - I. この恐怖や不安や回避が、特定の恐怖症として限定されるもの、その状況の型が（社交不安障害においてのような）社会的状況に限るもの、（強迫性障害においてのような）強迫だけに関係するもの、（身体醜形障害においてのような）外見的な障害や欠陥の認識、（心的外傷後ストレス障害においてのような）外傷的体験の想起、（分離不安障害においてのような）分離への恐怖などの他の精神障害でよりよく説明できない。

注釈：パニック障害の存在とは無関係に広場恐怖は診断される。もし、その人の状態がパニック障害と広場恐怖の基準に合致するのであれば、両方の診断がつけられる。

- ◇ DSM-IVにおいて、広場恐怖はその有無でパニック障害を2分するだけに過ぎなかった。DSM-5ではパニック障害とは切り離され、独立した疾患として扱われる。

全般性不安障害 Generalized Anxiety Disorder

- A. （仕事や学業などの）多数の出来事または活動についての過剰な不安と心配（予期憂慮）が、少なくとも6ヶ月間、起こる日のほうが起こらない日より多い。
- B. その人は、その心配を制御することが難しいと感じている。
- C. 不安と心配は、以下の6つの症状のうち3つ（またはそれ以上）を伴っている（過去6ヶ月間、少なくとも数個の症状が、続く日のほうがない日より多い）。

注. 子供の場合は、1項目だけが必要

1. 落ち着きのなさ、または緊張感または過敏
 2. 疲労しやすいこと
 3. 集中困難、または心が空白となること
 4. いらだたしさ
 5. 筋肉の緊張(こわばりなど)
 6. 睡眠障害(入眠または睡眠維持の困難、または落ち着かず熟眠感のない睡眠)
- D. 不安、心配、または身体症状が、臨床上著しい苦痛、または社会的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている
 - E. 症状が物質（例、乱用薬物、投薬、あるいは他の治療）の生理的作用によるものではない。
 - F. 障害が、他の精神障害（例、パニック障害におけるパニック発作を起こすことに対する不安や心配、社会不安障害における否定的な評価[社会恐怖]、強迫性障害における汚染や他のことについての強迫、

分離不安障害における愛着の対象物からの分離、心的外傷後ストレス障害における外傷体験の想起、神経性無食欲症における体重増加、身体症状障害における身体愁訴、身体醜形障害における外見的欠陥の認識、疾病不安障害における重篤な疾患、または統合失調症や妄想性障害における妄想的革新の内容) でよりよく説明できない。

この章には他に下記のもものが分類されている。

- **Substance/Medication-Induced Anxiety Disorder**
- **Anxiety Disorder Due to Another Medical Condition**
- **Other Specified Anxiety Disorder**
 - Limited-symptom attacks
 - Generalized anxiety not occurring more days than not
 - Khyâl cap (wind attacks)
 - Ataque de nervios (attack of nerves)
- **Unspecified Anxiety Disorder**